

令和5年度 国語科年間学習(評価)計画 第2学年

令和2年度版『ひろがることば 小学国語 二上』

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。

◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと △知技 ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
4	—	二年生で 学ぶ こと				
4	6 (書く 4)	ことばと であおう	□■詩を体を動かしながら声に出して読んだり、日記を書いたりすることを楽しみ、国語学習への意欲をもつ。			
4	2	ちいさい おおきい	□体を動かしたり、声の大きさを工夫しながら、楽しく読もう。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1 2	1. 教師の範読を聞き、体を伸ばしたり声の大きさを变化させたりしながら読む楽しさに気づく。 2. 生活班などの4人程度のグループで音読・表現の仕方を話し合い、発表会を開く。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。
		(どんな よみかたを するか かんがえて、こえに出して たのしもう。)				
4	4 (書く 4)	つづけて みよう ー日記ー	■毎日の生活を振り返り、日記を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ ☆生活科：観察日記を書く活動に生かすことができる。	1 2・3 4	○P12・13を読み、日記がどのようなものか、日記には何を書けばいいのかわかり、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう（重点） 1. 生活を振り返り、日記に書く材料を集める。 ○「日記のたね」をもとに、書いてみたい事柄を集める。 ○付箋を表に整理し、書きたいことを選ぶ。 書こう 2. 日記を書く。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】積極的に経験したことから書くことを見付け、学習の見通しをもって日記を書こうとしている。
4	3 (話す聞く3)	声の ものさしを つかおう	◇いろいろな場面で、話す声の大きさを考えて、気をつけて話すことの大切さに気づく。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	1 2 3	○いろいろな場面に合わせた声の大きさと話すことを理解し、学習のねらいと流れをつかむ。 1. 挿絵と照らし合わせながら教材文を読み、学習の大体をつかむ。 2. P14の「みんなにしらせるとき」「ほけんしつで」「うんどうかいで」の場面について、それぞれ、P15の「声のものさし」のどこにあたるか考え、実際に話しながら、「ものさし」の数値と実際の声の大きさを実感的に捉える。 3. 「声のものさし」に合わせて声を出す。 ・「ものさし」の「0の声」「4の声」を教室や校庭で実際に試したり、『ちいさい おおきい』をいろいろな「ものさし」で読んだりして、実感的に確かめる。 4. P15の場面の声の大きさやその理由を話し合い、生活のほかの場面を想定し合って、「声のものさし」をいつも心の中にもっているよう意識する。 5. P16「書くとおなじでも、よむとちがうことば」を読み、アクセントの違う言葉を集め、文を作って比べ合う。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ） 【態度】積極的に声の大きさや速さなどを工夫し、学習の見通しをもって話そうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
4～5	13 (話す聞く3)	一 どうしよう人物のしたこと に 気を つけて 読もう	□登場人物の様子を思いうかべながら読み、くまの子になったつもりで音読する。			
		「えいっ」	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒思判表A(1)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：B感謝 家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	1～4 ○単元とびらを読んで学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. くまのとうさんが「えいっ。」と言ったあとに起こることで、くまの子が驚いていることを確認する。 (1) くまのとうさんは、何回「えいっ。」と言ったのか。 (2) くまのとうさんの「えいっ。」で起きたことは何か。 考えよう 2. 登場人物の様子を想像する。 (1) くまのとうさんが言った始めの「えいっ。」と終わりの「えいっ。」で違っていることはあるか確認する。 (2) くまの子は、電車に乗って黙っていた時、どんなことを考えていたと思うか。 場面ごとに順番に、くまのとうさんの行動とくまの子の気持ちをノートに整理する。 5～7 深めよう 3. くまのとうさんが「なるほど。」と言ったのはなぜだと思うか、友達と話し合う。 8～12 広げよう 4. このお話のおもしろいところを紹介し合う。 13 ○単元の学習を振り返る。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもっておもしろいところを紹介しようとしている。	
5	2 (話す聞く2)	ひろい 公園	◇質問を落とさないように聞き、絵から答えを探す。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒◎思判表A(1)エ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。⇒思判表A(2)イ	1 ○教材名とリード文を読み、公園の絵を見ながら質問を聞くという学習の見通しをもつ。 話そう・聞こう（重点） 1. 質問を聞いて、絵から探す。 (1) 教科書に描かれた、広い公園で子どもたちが遊ぶ絵を見ながら、質問を聞く。 (2) 質問の内容を確かめ、答えを話し合う。 (3) 絵を見て同じような質問を作り、きき合って答えを考える。 2 2. 伝言ゲームをする。 (1) 絵の中の様子を文にして話したり聞いたりする。 (2) 考えた文を使って、伝言ゲームをする。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ） 【態度】積極的に自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、学習課題に沿って質問に答えようとしている。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
5	2	漢字の ひろば ① 画と 書きじゅん	△漢字の画と筆順について理解し、正しく書く。 △第２学年においては、学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第１学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第２学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「土」「日」の字は、それぞれ何画で書くのかを考える。 2. 漢字の画や画数の意味を知り、「山」「女」「糸」「右」「目」「馬」の画数と、それぞれの１画めがどこかを話し合う。 3. これまでに学んだ漢字をもとに、画数についての問題を作り、互いに答え合う。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 （〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に漢字の筆順を理解し、学習の見通しをもって正しい筆順で漢字を書こうとしている。
				2	4. 「書きじゅんのきまり」をもとに、筆順の三つの原則について、考える。 5. 三つの原則とは異なる「とくべつな書きじゅん」があることも、理解する。 6. 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って正しく書く。	
	2 (書く2)	一年生で 学んだ 漢字 ①	△絵を見て想像したことをもとに、１年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第２学年においては、学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第１学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第２学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	3・4	7. 絵の中の言葉として示されている漢字の読み方を確認し、一年生のときの一年間のできごとを振り返る。 8. 教科書の絵と言葉を参考に短文を作り、句読点の打ち方に気をつけて書く。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 （〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
5	13 (書く3)	二 じゅんじよに 気を つけて 読み、つながりを つけよう	□ありとの関わりに気をつけながら、すみれが仲間を増やす仕組みについて説明した文章を読む。			
		すみれと あり	△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 →知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 →◎知技(2)ア ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)ウ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 →◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 →◎思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →思判表C(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 →思判表B(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 →思判表C(2)ア ☆生活科：順序に気をつけて観察文などをまとめる。	1 2・3 4～6 7～9 10～12 13	○単元とびらを読んで学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 書かれていることの大体を写真から確かめる。 (1) 題名「すみれと あり」や写真を見て、どんなことが書かれた文章なのか、話し合う。 (2) この文章を書いた人が不思議に思ったことは何か、P42から見つける。 考えよう 2. すみれの様子がどのように変わっていくのか、ありがどんなことをするのか、順序に気をつけて読み、表にまとめる。 (1) すみれの育つ順序にそって、表に書く。 (2) すみれの種をありが見つける所から、行動の順序にそって、表に書く。 (3) 全体で交流し、表の中身を確認する。 深めよう 3. なぜ、題名が「すみれと あり」になつていいのか。友達と話し合う。 (1) 「ありとすみれ」ではない訳を考える。 (2) 考えたことを友達と話し合う。 広げよう 4. この文章を読んで、おもしろいな、不思議だなと思ったことを書く。 (1) 自分の感じたことを、『「何が、どうする」ところがおもしろい（不思議だ）と思いました。』と、表す。 (2) 書いたことを友達と発表し合う。 (3) 「すみれ」と「あり」がどのようにつながっているのか、発表したことをもとに、更に知りたいと思ったことを図書資料等で詳しく調べる。 (4) 図書資料等から、新たにおもしろいな、不思議だなと思ったことをノートに書く。 書いた文章を、友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ） 【態度】進んで時間的な順序や事柄の順序などを考え、内容の大体を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。
5	2	「言葉あそび」を しょう	△平仮名四十七文字を全て使った歌のあることを知り、音読する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 →知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 →◎知技(1)ク △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。 →◎知技(3)イ	1・2	1. 「いろは歌」が、平仮名四十七文字を一回ずつ使って作られていることを確かめ、声に出して五七五のリズムのよさを楽しみながら読む。 2. 数え歌を知り、遊びながら読んだり歌ったりする。 3. 家の人やお年寄りに遊び歌などを教わって集め、友達と紹介し合いながら遊ぶ。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【態度】進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付こうとし、学習の見通しをもって音読しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
6	3	かたかなで書く言葉	△片仮名で書く言葉の種類を知り、正しく使い分ける。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	1 2・3	○学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 1. P52を読んで、片仮名で書く言葉の種類を知り、片仮名で書く言葉を種類ごとに仲間分けをさせる。 2. 片仮名に習熟していない児童は、まちがえやすい片仮名を書き順や形に気をつけて書く練習をする。 3. P53上段の設問を読み、絵の中の言葉をP52の①から④のように仲間分けをし、片仮名で書く。 4. P53下段の設問を読み、絵の中から片仮名で書く言葉を見つけ、適切な文を作る。 5. 片仮名で書く言葉には他にどのようなものがあるか、どう使うか考え話し合う。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に片仮名で書く語の種類を知ろうとし、今までの学習を生かして文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
6	8 (書く6)	三 本で しらべて しょうかいしよう	△■図書館で本を探す方法を知り、生き物について調べたことからクイズを作る。			
6	2	図書館で 本を さがそう	△図書館に行き、自分が調べたり読んだりしたいテーマの本を探して、読む。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 →知技(1)カ △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 →知技(3)エ □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 →思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →思判表C(1)オ □学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。 →思判表C(2)ウ	1	○図書館で本を探す方法を知り、本を探して読むという学習内容を捉え、学習の見通しをもつ。 1. 図書館に行き、本を探す方法を知る。 (1) たくさんの本の中から、目的の本を見つけるための方法について話し合う。 (2) 自分の学校の図書館の配架の仕方を確かめる。	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(〔知識及び技能〕(3)エ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ) 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本の探し方を知ろうとしている。
6	6 (書く6)	「生きもののクイズ」を作ろう	■生き物について知りたいことを調べ、クイズを作る。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 →知技(2)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 →知技(3)エ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 →思判表(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 →思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 →思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 →思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。 →思判表B(2)ア ☆生活科など：題材は生活科で学んだ生き物から選ばせることもできる。	3・4	○学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう（重点） 1. クイズにしたい生き物を決め、調べる。 (1) クイズにしたい生き物を決める。 (2) クイズにしたい生き物について、詳しく調べる。 (3) クイズにしたい内容をメモに書く。	◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) 【態度】積極的に必要な事柄を集めたり確かめたりし、学習の見通しをもって「生きもののクイズ」を作ろうとしている。
				5・6	組み立てよう・書こう（重点） 2・3. 「生きもののクイズ」を作る。 読み返そう 4. 作ったクイズを読み返す。	
				7・8	伝え合おう 5. 「生きもののクイズ」を出し合う。 ○学習を振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
6	2	漢字の ひろば ② なかまの 言葉と 漢字	△意味をもとに仲間に分けた漢字について理解する。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「家族を表す言葉」について考える。 2. 「時を表す言葉」について話し合う。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 （〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって漢字の意味のつながりを知らうとしている。
				2	3. 意味をもとに漢字を仲間に分けることについて理解し、それぞれの漢字を関連づけて覚える。 4. 意味のつながりのある言葉や漢字を身のまわりから探して、ノートに書き、発表し合う。 5. 反対の意味の漢字を確かめ、あてはめる。 ○学習したことを振り返る。	
6	4 (話す聞く2)	うれしく なる 言葉	△言葉が表す意味と、その言葉にこめられる気持ちについて考え、話し合う。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ	1・2	○学校生活を振り返り、うれしかった言葉を想起して「うれしくなる言葉」について学ぶことへの見通しをもつ。 1. 心に残っている「うれしかった言葉」を思い出して、①どんな時に言われたか、②誰から言われたか、③どんな言葉をかけられたか、④どう思ったかを思い出して、カードに書く。 2. カードに書いたものをグループで見せ合い、会話をしながらお互いの気持ちを伝え合う。 3. グループでの発表をもとに、次はクラス全体に代表者が発表する。 4. 家族に言われてうれしかった言葉を思い出して、話し合いながらいろいろなエピソードを見つけ、言葉と経験を結びつける。 3 5. 挿絵の友達の作品を見て、友達にかけるとよい言葉を考える。 6. 言葉を考えながら友達にかけるとよい言葉はどのようなものがうれしいのか、相手の立場に立ったものを考えられるとよいことに気づく。 7. 相手や自分が「うれしくなる言葉」について考える中で、どんな言葉だとうれしくないのかも考えさせるなど、人の気持ちを考えて言葉を使うことを考える。 4 8. 友達の素敵なところを思い浮かべて、みんながうれしくなる言葉を伝え合う。 9. 言葉によって相手や自分がどのような影響を受けるのかを考え、学習をまとめる。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ） 【態度】積極的に言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって「うれしくなる言葉」を伝え合おうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
6～7	15 (書く3)	四 くりかえしに 気を つけて、とうじょう人物の様子を 読もう	□繰り返し出てくる言葉に気をつけて読み、繰り返しのあるお話を作る。			
		きつねの おきやくさま	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒ 知技(1)ア △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒ 知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒ ◎知技(1)ク ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒ 思判表B(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒ 思判表B(1)オ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒ 思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒ ◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒ ◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒ 思判表C(1)カ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒ 思判表B(2)ウ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒ 思判表C(2)イ ☆生活科：身近な生き物などを登場人物にした物語を作り、友達に紹介する。 ☆道徳：D 生命の尊さ 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	1 2・3 4～9 10～12 13～15	○学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. P82「たしかめよう」の①②③の順序で、お話が繰り返されていることを確かめる。 考えよう 2. 以下のそれぞれの時のきつねの思いを確認する。 (1) ひよこ、あひる、うさぎに「お兄ちゃん。」と言われた時。 (2) 「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ。」と言って、飛び出した時。 (3) きつねの性格を考えて、訳とともに文章に書き、それをもとに話し合う。 広げよう 4. この話の好きな場面を発表する。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） 【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って好きな場面を発表しようとしている。
7	5	いなばの しろうさぎ	△古くから伝わっている話を、興味をもって聞き、場面の様子を想像する。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒ ◎知技(3)ア ☆生活科：地域に伝わる昔話や神話・伝承などを調べ、興味をもつ。 ☆道徳：C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	1 2・3 4・5	○学習の見通しをもつ。 1. 絵を見て、どんなお話なのか、ストーリーを予想する。 2. 絵を見ながら、教師の音読を聞いて、場面の絵をもとにお話を確かめる。 3. 昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読む。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア） 【態度】進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、今までの学習を生かして昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読もうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
7	4 (書く4)	「かんさつ発見カード」を書こう	■観察して同じところや違うところを見つけ、「かんさつ発見カード」を書く。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆生活科：観察カードを書く活動などに生かすことができる。	1	○学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 生活科の学習で継続して観察している動植物などから書く対象を決める。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)カ)
				2	2. 新しく観察して気づいたことをメモに書き出す。 組み立てよう・くらべよう(重点) 3. メモを組み立て表の上に並べてみる。	◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)
				3	4. 3のメモとこれまでに書いた観察記録を比べ、同じところと違うところを目を向ける。 書こう・読み返そう 5. 比べて気づいた点を「発見」として「かんさつ発見カード」を書く。	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)
				4	伝え合おう 6. お互いに読み合う。 ○学習を振り返る。	【態度】粘り強く事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、学習の見通しをもって「かんさつ発見カード」を書こうとしている。
7	2	「言葉のなかまさがしゲーム」をしよう	△言葉が体系性をもって存在していることに気づき、上位語・下位語の概念に基づいて、言葉を探したりまとめたりすることができる。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア	1	○言葉が仲間ごとにまとめられるということを知り、学習活動に対する見通しをもつ。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ)
				2	2. 前時に集めた言葉を用いて「言葉のなかまさがしゲーム」の問題づくりを行う。 3. 別のグループの友達と一緒に「言葉の仲間さがしゲーム」を行う。 ○学習したことを振り返る。	【態度】積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
9	12 (書く3)	五 したことや言ったことから、登場人物の考えを読もう	☐ 登場人物のしたことを思い浮かべながら読み、登場人物に手紙を書く。 ☐ 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒ ◎知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ☐ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)イ ☐ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ ☐ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒◎思判表C(1)オ ☐ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ ☐ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：D感動、畏敬の念 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。			
		わにのおじいさんのたからもの		1	○単元の見通しをもつ。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） 【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って登場人物に手紙を書くようにしている。
				2・3	確かめよう 1. どんなお話か確認する。 (1) 登場人物を確認する。 (2) 始めと終わりの場面を比べて、お話の中でどんなできごとがあったのかを確認する。主なできごと（おにの子とわにのおじいさんの行動）を確認する。	
				4～6	考えよう 2. 登場人物の気持ちを想像する。 (1) わにのおじいさんは、どうしておにの子に宝物の場所を教えたのか。 (2) おにの子、わにのおじいさんの、それぞれにとつての「たからもの」は何か。	
				7～9	深めよう 3. おにの子は、どのような人物だと思うか。	
				10・11	ひろげよう 4. お話のおもしろいと思ったところや、素敵だなと思ったところを発表する。	
				12	5. 話し合ったことをもとに、おにの子か、わにのおじいさんに手紙を書く。 ○学習を振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
9	2	はんたいのいみの言葉、にたいの言葉	△対義語や類義語があることを知り、身近な言葉から対義語や類義語を集めることができる。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア	1	○言葉には、反対の意味をもつものや、似た意味をもつものがあることを知り、学習活動に対する見通しを持つ。 1. 「はんたいのいみの言葉」にはどのようなものがあるかを考え、ペアになるカードを作る。 2. 作ったカードを友達どうしで確かめ合う。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【態度】積極的に言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。
				2	3. 「にたいの言葉」にはどのようなものがあるのかについて考える。 4. 「にたいの言葉」を分類したり、整理したりして、気づいたことを話し合う。 ○学習したことを振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
9～10	11 (書く11)	六 まとまりを考えて書こう	■「はじめ」「中」「おわり」のまとまりを考えて、町探検報告文を書く。			
		町の「すてき」をつたえます	△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆生活科：生活科見学の報告文を書くときに生かすことができる。	1 2～4 5～7 8～10 11	○「学習の進め方」を読み、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 探検してわかったことを、メモに書く。 (1) 探検したい場所を決めて探検し、探検したことを「町たんけんカード」に書く。 (2) 「町たんけんカード」の中から、「見つけたこと」「聞いたこと」「思ったこと」などを抜き出してメモに書く。 (3) メモに書いたことについてペアで読み合い、話し合う。 組み立てよう（重点） 2. 「はじめ・中・おわり」に何を書くか考える。 書こう・読み返そう（重点） 3・4. 文章を書き、読み返す。 伝え合おう 5. 書いた文章を読み合い、よいところを伝え合う。 ○学習を振り返る。	【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ） 【態度】積極的に事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、今までの学習を生かして報告する文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
10	2（書く １）	七　しゃしんをくらべて、考 えよう	□ 1 枚めの写真から視点を定めて、2 枚めの写真 になった際、何かが起きたことを想像する。			
		この間に何があった？	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験した ことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒ 知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の 中で使うとともに、言葉には意味による語句のま とまりがあることに気付く、語彙を豊かにするこ と。 ⇒知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関 係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の 順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒◎思 判表B(1)イ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、 内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想 をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像し たことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ □学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なこと について書いた本などを読み、分かったことなど を説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ	1・2	○学習の見通しをもつ。 1. 1 枚めの写真と 2 枚めの写真を比較して、間に 何があったのかを想像し、表現する。 (1) 1 枚目と 2 枚目の写真の違いを見つける。 (2) 見つけた違いをもとにして、間にどのようなこ とが起きていたかを想像する。 (3) 想像したことを書いたり、話したりして表現す る。 (4) 友達と自分の想像の同じところ、違うところに 気がつく。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】共通、相違、 事柄の順序など情報と情報との 関係について理解している。 (〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思考・判断・表現】「書く こと」において、自分の思いや 考えが明確になるように、事柄 の順序に沿って簡単な構成を考 えている。(〔思考力、判断 力、表現力等〕Bイ) ◎【思考・判断・表現】「読む こと」において、時間的な順序 や事柄の順序などを考えなが ら、内容の大体を捉えている。 (〔思考力、判断力、表現力 等〕Cア) ◎【思考・判断・表現】「読む こと」において、文章の内容と 自分の体験とを結び付けて、感 想をもっている。(〔思考力、 判断力、表現力等〕Cオ) 【態度】積極的に共通、相違、 事柄の順序など情報と情報との 関係について理解し、学習課題 に沿って考えたことを文章にま とめようとしている。

令和5年度 国語科年間学習(評価)計画 第2学年

令和2年度版『ひろがることば 小学国語 二下』

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。

◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと △知技 ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
10	—	二年生で学ぶこと				
10	11 (話す聞く3)	一 じゅんじょや様子に気をつけて読もう	□さけの成長について、季節や場所、さけの様子の移り変わりを考えながら、内容の大体を読む。			
		さけが大きくなるまで	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒ 知技(1)ア △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒ 知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)イ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア ◇事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判表C(2)ア ☆生活科：順序に気をつけて観察文などをまとめたり、調べたことを発表したりする。	1 <		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
10 ～ 11	10 (書く 10)	二 様子をよく見て、くわしく書こう	■見つけた物の様子をよく見て、様子が伝わるように詳しく書く。			
		おもしろいもの、見つけたよ	△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →◎知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 →知技(2)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 →思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 →思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 →思判表◎B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 →思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 →◎思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 →思判表B(2)ア ☆生活科：題材は生活科で扱ったものから選ぶこともできる。	1 2 3・4 5～7 8 9・10	○「学習の進め方」を読んで、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 見つけたものから、書くことを決める。 組み立てよう 2. 見つけたものの様子をメモに書き、まとまりごとに並べる。 書こう（重点） 3. 文章を書く。 読み返そう 4. 書いた文章を、声に出して読み返す。 伝え合おう（重点） 5. 友達と文章を読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） 【態度】進んで文章に対する感想を伝え合い、学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。
	2	しを読もう てんとうむし 木	□イメージの自由な広がりをおして、詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →◎知技(1)オ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 →◎思判表C(1)エ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ	1 2	1. 『てんとうむし』を読み、この詩のおもしろいところと、わからないところを話し合う。 2. 「ちいさくてもぞうとおなじいのちをいつもっている」という一節をどう思うか、話し合う。 3. 『木』を音読して、どのような木か、大きさや形などを想像し合う。 4. 詩を視写し、絵を描いたり思ったことを書いて、考えたことを発表し合う。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって感想を発表しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
11	12	三 だれが、どのようにかわったかを考えて読もう	□△登場人物のしたことや言ったこと、場面の様子を読み、読書の世界を広げる。			
11	7	ないた赤おに	□登場人物の気持ちの移り変わりを考えながら、『ないた赤おに』を読み、心に残ったことを話し合う。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒◎思判表C(2)イ ☆道徳：B友情、信頼 友達と仲よくし、助け合うこと。	1・2 3・4 5～7	○学習に見通しをもつ。 確かめよう 1. 主な登場人物とできごとを確かめる。 考えよう 2. 赤おにが変わったところがあるか、人間たちや青おにとの関わりから考える。 深めよう 3. 赤おにと青おにを、それぞれどのような鬼だと思うか。 広げよう 4. このお話を読んで、心に残ったところとその訳を紹介し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） 【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って心に残ったところを文章にまとめようとしている。
11	5	「お話びじゅつかん」を作ろう	△自分の読んだ本の中でいちばん心に残ったところを絵に描いて紹介する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ □学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。 ⇒◎思判表C(2)ウ	8・9 10・11 12	○本の中でいちばん心に残ったところを絵に描いて紹介するという学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。 1. 読みたい本を探して読み、心に残ったことやその訳をメモする。 2. 「お話びじゅつかん」の作品を作る。 (1) 紹介したい本を選び、心に残ったところを絵に描く。 (2) 作品に題名を工夫してつけ、展示する。 3. 「お話びじゅつかん」の作品の前で、本を紹介し合う。 ○学習を振り返る	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ） 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を紹介しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
12	2	漢字の広場 ④ 漢字のつかい方と読み方	△漢字の使い方や読み方、意味などを考えて漢字を正しく使う。 △第２学年においては、学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第１学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第２学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「生」という漢字のいろいろな使い方を考える。 2. P56上段の設問をもとに「生」の読み方について、話し合う。 3. 「後」「行」「通」の読み方と、それぞれの意味の違いを考え、話し合う。 2	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 （〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって漢字を正しく使おうとしている。
				2	4. 送り仮名によって読み方が変わる漢字をもとに、「おくりがな」の役割を考える。 5. P57下段の設問をもとに、読み方によって送り仮名が変わることを理解する。 6. 複数の読み方がある漢字を集めて、短文を作り、発表し合う。	
12	2 (書く 2)	漢字の広場 ④ 一年生で学んだ漢字 ③	△絵を見て想像したことをもとに、１年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第２学年においては、学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第１学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第２学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ	3・4	7. 絵の中の言葉の読み方を確認する。 8. 教科書の絵と言葉を参考に、絵に描かれている様子から想像できる短文を作り、語と語の続き方に注意して文を書く。 9. 主語と述語のつながりに気をつけて、絵の中の言葉を使って２文以上が続くように書き、発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 （〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 （〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文や文章を書くとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
12	19 (書く 10)	五 わかりやすくせつめいする ための、くふうをたしかめよう	□■説明の順序を正しく捉えながら読み、おもちゃの作り方を説明する。			
12	12 (書く 3)	「しかけ絵本」を作ろう	□説明の順序に気をつけながら、「しかけ絵本」の仕組みや作り方を書いた文章を読む。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 → 知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 → 思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 → 思判表B(1)ウ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 → ◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 → ◎思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 → 思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 → 思判表C(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 → 思判表B(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 → 思判表C(2)ア ☆生活科・図工：順序に気をつけて作業の手順を説明する文章を書く。	1 2・3 4・5 6・7 8・9 10・11 12	○学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 「しかけ絵本」の作り方を写真から確かめる。 (1) 用意する材料と道具は何か。 (2) どんな順序で作るのか。 考えよう 2. 「しかけ絵本」ができるまでにすることと気をつけることを表にまとめる。 (1) 「じゅんじょ」「どうする」「気をつけること」を表す言葉を見つける。 (2) 「しかけ絵本」を作る順序や作り方を文章から確かめ、表にまとめる。 (3) 「用意するざいりょう」を読んで、書いてある内容を読み取り、実際に用意して確かめる。 (4) 順序に気をつけて、写真や文章を照応しながら「しかけ絵本」を作る ・動物の表情や、食べるものが何か、を想像する。 ・表紙、仕掛け、背表紙を作る。 深めよう 3. 本文は、「しかけ絵本」の作り方をわかりやすく伝えるために、どのような工夫がされているか、考えたことを話し合う。 (1) これまでの説明文との違いについて、気がついたことをノートに書く。 (2) 友達どうして、気がついたことを交流する。 広げよう 4. 「しかけ絵本」のお話を考え、紹介する。 *どのような動物や生き物が登場するのか。 *どのような表情をするのか。 *仕掛けには、どのような動きがあるのか。 以上、3点を紹介の時に発表する。 ○学習を振り返る。	【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(【知識及び技能】(1)ア) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cア) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(【思考力、判断力、表現力等】Cウ) 【態度】進んで時間的な順序や事柄の順序などを考え、学習課題に沿って「しかけ絵本」を作ろうとしている。
12	7 (書く 7)	おもちゃのせつめい書を書こう	■おもちゃの作り方や遊び方の順序を考えて、説明書を書く。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 → 知技(1)ア △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 → ◎知技(2)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 → 思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 → 思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 → ◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 → ◎思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 → 思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 → 思判表B(2)ア ☆生活科：題材は生活科で扱ったおもちゃから選ぶこともできる。	1 2・3 4・5 6・7	○「学習の進め方」を読み、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. おもちゃの作り方や遊び方を思い出し、メモに書く。 組み立てよう 2. 説明書の組み立てを考える。 書こう・読み返そう(重点) 3・4. 説明書を書き、読み返す。 伝え合おう 5. 友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(【思考力、判断力、表現力等】Bエ) 【態度】粘り強く語と語や文と文との続き方に注意し、学習の見通しをもって説明する文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
1	2	しを読もう せかいじゅうの海が	☐ イメージの自由な広がりをとおして、詩を楽しむ。 <input type="triangle"/> 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →◎知技(1)オ <input type="triangle"/> 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 →知技(1)ク ☐ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 →思判表C(1)イ ☐ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 →思判表C(1)エ ☐ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →思判表C(1)オ ☐ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →◎思判表C(1)カ ☐ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ	1	1. 『せかいじゅうの海が』を読み、「どんなに大きな……だろな。」という言い方で自由に想像して、話し合う。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ）
				2	2. 「せかいじゅうの○○が」を自由に想像させ、絵に描いたり思ったことを書いたりして、発表し合う。	【態度】積極的に文章を読んで感じたことや分かったことを共有し、学習の見通しをもって想像したことを発表しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
1	11 (話す聞く3)	六 場面や人物の様子をくわしく読もう	□様子を詳しく読んで、読み方を工夫して音読発表会を開く。			
		かさこじぞう	△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 →◎知技(1)ク △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 →知技(3)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫すること。 →思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 →思判表A(1)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 →思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 →◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →◎思判表C(1)カ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 →思判表A(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ ☆道徳：C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	1・2 3・4 5・6 7・8 10・11	○単元全体の学習に見通しをもつ。 確かめよう 1. 『かさこじぞう』の音読発表会を開くために、教材文を読んでいくことを確認する。 (1) 主な登場人物を確認する。 (2) 主なできごとと、何が変わったのかを確認する。 考えよう 2. 登場人物の気持ちを考えながら詳しく読む。 (1) じぞうさまは、なぜ、いろいろなものをじいさまとばあさまの家に持っていたのでしょうか。 (2) じいさまとばあさまは、どのような人物だと思うか。わかるところを見つけて紹介し合う。 深めよう 3. いちばん好きな場面とその訳を紹介する。 広げよう 4. 音読発表会の準備をする。 ・グループで好きな場面を音読劇にする。どこを、どのように工夫して読むのか相談する。 5. 音読発表会をする。 ・音読発表会を行い、他のグループの発表のよいところをノートに書いて伝え合う。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ） 【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって音読発表会をしようとしている。
1	3	むかしのあそび	△日本に古くから伝承されている昔遊び（正月遊び）を知り、実際に遊ぶことを通してその魅力を知る。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 →知技(3)ア △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。 →◎知技(3)イ	1 2・3	1. 正月に見られる「門松」「初夢」「お年玉」「書初め」「鏡餅」などについての簡単な由来を知る。 2. 昔遊び（正月遊び）に見られる「羽根つき」「たこあげ」「福笑い」「こままわし」「かるたとり」をする理由を知り、実際に遊んでみる。	◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【態度】進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付く、学習の見通しをもつてかるたを楽しもうとしている。
1	4 (話す聞く4)	むかしのあそびをせつめいしよう	◇昔の遊びについて、遊び方を調べて説明する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 →◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 →思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 →◎思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫すること。 →思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 →思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 →思判表A(2)ア	1 2・3 4	○昔の遊びから一つ選んで、遊び方を調べて友達に説明するという学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 説明する遊びを決め、遊び方を調べる。 (1) 新しく知った昔の遊びから説明する遊びを選ぶ。 (2) 遊び方を調べる。 組み立てよう（重点） 2. 説明のメモを書き、話す練習をする。 (1) 同じ遊びを選んだ人どうして遊び方を確かめながら、説明のためのメモを書く。 (2) メモをもとに、遊び方について順序に気をつけて説明する練習をする。 話そう・聞こう 3. 遊び方を説明する。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ） 【態度】進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして昔の遊びの遊び方を説明しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
2	3	主語とじゅつ語	△文を読んで、主語と述語の対応を考え、正しく使うことができる。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア	1 2 3	○冒頭の会話文をとおして、文作りにおいて主語と述語の対応が重要だということを知る。 1. 省略されている主語を考えることをとおして、主語を明示することの重要性に気づく。 2. 教科書を読みながら、①～③の例文の形を確認していく。 3. ①～③の例文と同じ形の文を作る。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)カ) 【態度】積極的に文の中における主語と述語との関係に気付く、学習の見通しをもって文を読んだり書いたりしようとしている。
2	2	漢字の広場 ⑤ 同じ読み方の漢字	△同じ読み方の漢字を集め、漢字を正しく使う。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ	1 2	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. P102上段の設問について考える。 2. 同じ読み方をする漢字を集めて文を作り、友達と読み合い、それぞれの漢字の意味や使い方の違いについて話し合う。 3. P103の「か」「とう」「し」と読む漢字を集めて語句を作り、発表し合う。 4. 同じ読み方をする漢字を集めて問題を作り、解答し合う。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって同じ読み方の漢字を正しく使おうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
2	13 (書く 13)	七 じゅんじょに気をつけて 書こう	■したことや身のまわりのできごとの中から書く ことを見つけ、順序を考えて書く。			
		こんなことができるようになったよ	△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒知技(1)キ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒◎思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒◎思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	1 2 3～5 6～10 11～13	○「学習の進め方」を読んで、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. できごとを思い出して、書くことを決める。 (1) これまでのできごとの中から心に強く残っていることを発表し合い、文章に書く題材について考える。 (2) 文章に書きたい題材の一つを選び、何を書くのかを詳しく思い出して、メモに書き出す。 組み立てよう 2. 文章の組み立てを考える。 書こう・読み返そう（重点） 3・4. メモの順序にそって、文章を書き、読み返す。 (1) 文章を書く。 (2) 書いた文章を読み返す。 伝え合おう（重点） 5. できあがった文章を読み合い、感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)ウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) 【態度】積極的に、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりし、学習の見通しをもって文章を書こうとしている。
2	3	音や様子をあらわす言葉	△擬声語や擬態語のはたらきなどを理解し、文の中で使うことができる。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ	1 2 3	○言葉には、音や様子を表すことができるものがあることを理解し、学習活動に対する見通しをもつ。 1. 「音をあらわす言葉」のはたらきや表記の仕方について理解する。 2. 「様子をあらわす言葉」のはたらきや表記の仕方について理解する。 3. 濁音の有無によって、「音や様子をあらわす言葉」から受ける感じが異なることを理解する。 4. 単純形と反復形によって、「音や様子をあらわす言葉」から受ける感じが異なることを理解する。 5. 音や様子を表す言葉を使って文を書く。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。 (〔知識及び技能〕(1)オ) 【態度】積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、学習の見通しをもって文の中で使おうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
2	2	漢字の広場 ⑥ 組み合わせでできている漢字	△同じ部分をもつ漢字を集め、漢字を正しく使う。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「明」という漢字の分け方を考える。 2. 漢字の中には、左右・上下・内外などに分けられるものがあることを確かめ、漢字の組み立て方には一定のきまりがあることを理解する。 3. 「心・田」などの漢字を組み合わせでできる漢字を考え、話し合う。 4. 「心・田」などと同じような問題を作り、解答し合う。	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。(【知識及び技能】(1)エ) 【態度】積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって同じ部分をもつ漢字を正しく使おうとしている。
	2 (書く 2)	漢字の広場 ⑥ 一年生で学んだ漢字 ④	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表B(1)エ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	3・4	7. 絵の中の言葉の読み方を確認する。 8. 教科書の絵と言葉を参考に、絵に描かれている様子から想像できる短文を作り、語と語の続き方に注意して文を書く。 9. 男の子と女の子の目に映ったものを、主語と述語のつながりに気をつけて、2文以上が続くように書き、発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
2～3	16 （書く 4）	八 場面の様子や登場人物の行動に気をつけて読もう	□お話の順序に気をつけて読み、あらすじをまとめて紹介する。			
		アレクサンダとぜんまいねずみ	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 → ◎知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 → 思判表B(1)イ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 → 思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 → 思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 → ◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 → ◎思判表C(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 → 思判表B(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 → 思判表C(2)イ ☆道徳：B 友情、信頼 友達と仲よくし、助け合うこと。	1	○単元全体の学習に見通しをもつ。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）
				2・3	確かめよう 1. あらすじをまとめて身近な人に紹介するために、お話を詳しく読む。 (1) 登場人物や主なできごとを確かめる。 ・登場人物の特徴を整理する。 ・場面ごとにアレクサンダのしたことや話したことなどを確かめる。 (2) 物語の始めと終わり、何が変わったかを話し合う。	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ）
				4～11	考えよう 2. 場面ごとの登場人物の気持ちを詳しく読む。 (1) アレクサンダは、いつ自分の考えを変えたのか、話し合う。 (2) アレクサンダは、なぜ考えをかえたのか、話し合う。	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもち、学習課題に沿って文章にまとめようとしている。
				12・13	深めよう 3. アレクサンダが考えを変えたことについて、自分の考えを発表し合う。	◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ）
				14～16	広げよう 4. この話を誰に紹介するのかを決め、自分が興味・関心をもったところを中心にあらすじをまとめて書き、それをもとに紹介し合う。 ○学習を振り返る。	
3	2 （話す聞く1,書く1）	国語の学習 これまで これから	◇■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 → 思判表A(1)ア ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 → ◎思判表A(1)エ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 → ◎思判表B(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 → 思判表B(1)オ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 → 思判表A(2)ア ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 → 思判表B(2)ア	1	1. 一年間の国語の学習で学んできたことや言葉を思い出して書いたり、出し合ったりする。	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ）
				2	2. 1. で出し合ったことをもとにして、三年生の国語で学びたいことを出し合う。	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）
						【態度】進んで経験したことから書くことを見付け、今までの学習を生かして思い出したことや三年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。